

2026年3月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米3月CPI(総合)は、前年同月比+3.3%(2月:同+2.4%)、前月比+0.9%(2月:同+0.3%)と前月から大きく伸びが加速した。一方で、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは前年同月比+2.6%(2月:同+2.5%)、前月比+0.2%(2月:同+0.2%)と伸びは前月並みの水準にとどまった。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、中東情勢の悪化による原油価格の大幅な上昇を背景としてエネルギーが+0.696%と前月から大幅に伸びが加速しており、CPI全体の上昇(前月比+0.9%)の約4分の3を占める形となった。コア財は+0.021%、食品は▲0.001%とおおむね横ばい圏の動きとなり、コアサービスは+0.137%と伸びが鈍化するなど、エネルギー以外の項目は落ち着きがみられた。

・総じてみると、3月のCPIでは、基調的なインフレの動向は落ち着いた状況にあることが示された。しかし、中東情勢悪化による原油価格の高騰の影響がエネルギー以外の項目においても今後顕在化する可能性があり、動向を注視する必要がある。

<米3月CPI(消費者物価指数)結果>

(単位:%)

	2月分	3月分	市場予想(3月分)
CPI(前月比)	0.3	0.9	0.9
CPI(前年同月比)	2.4	3.3	3.4
コアCPI(前月比)	0.2	0.2	0.3
コアCPI(前年同月比)	2.5	2.6	2.7

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位:%)

主な項目	2月分	3月分
コアサービス	0.163	0.137
(うち住居費)	0.082	0.095
コア財	0.016	0.021
食品	0.054	▲ 0.001
エネルギー	0.040	0.696

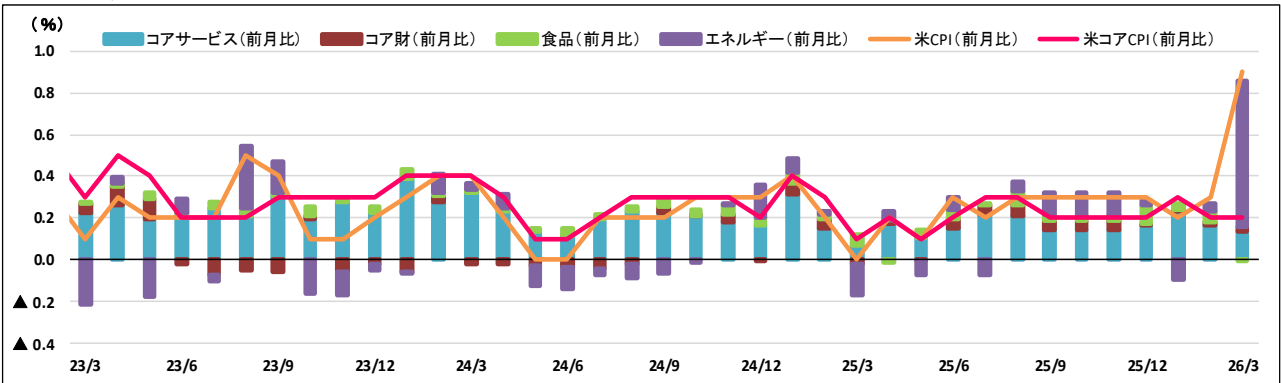
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリーで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所:米労働省、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

<市場動向>

米国金利

米国金利は、エネルギー価格上昇によるインフレ圧力の高まりが事前に予想されていたなかで、CPIの伸びが市場予想を下回ったことから、公表後は一時金利低下で反応したが、週末の米国・イランの停戦協議を控えて金利上昇に転じる動きとなり、長期金利は前日比+0.042%の4.32%で引けた。

ドル/円相場

ドル/円相場は、CPIの公表後は米金利の低下を受けて一時159円を割り込んだが、その後は米金利が上昇に転じたことで下げを埋める展開となり、159円30銭付近まで値を戻した。

米国株

米国株は、米国・イランの停戦協議を週末に控えた警戒感からダウ平均株価、S&P500指数は小幅に下落したが、堅調なAI関連需要を背景としてハイテク株比率の高いNASDAQ総合指数は上昇するなど、まちまちな展開となった。

	4月9日 終値	4月10日 終値	前日比
ドル/円相場(円)	158.96	159.27	+0.31
ダウ平均株価(ドル)	48,185.80	47,916.57	▲ 269.23
S&P500(ポイント)	6,824.66	6,816.89	▲ 7.77
NASDAQ(ポイント)	22,822.42	22,902.89	+80.47
米国長期金利(%)	4.275	4.317	+0.042

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。